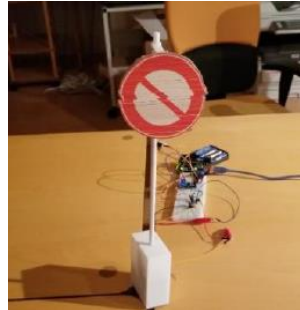


■ 審査結果発表 ■



・創房大賞 2019 鈴木紫琉「noise」 | 情報メディア創成学類 1年 | 個人制作 | 自主制作



・優秀賞 平井葉菜「凹凸」 | 情報メディア創成学類 2年 | グループ制作(他2名) | 授業課題

・優秀賞 XU DETIAN「もう少しだけ過ごしたい一時」 | 芸術専門学群 1年 | 個人制作 | 授業課題



■審査員 (敬称略) 瓜生潤、織田隆治、大矢晃久、亀山幸義、河辺徹、松浦一教、野崎慎也、岳洋一

■審査方法および表彰 審査員各1名が3ポイントを参加作品に投票、得票率により上記3作品を選出しました。「創房大賞 2019 (3万円ギフト券、㈱アクセルより副賞1万円相当)」、「優秀賞 (1万円ギフト券、㈱セルシスより副賞5千円相当)」

■総評 瓜生潤 今回は、エントリーシートやデモ動画でイメージが伝わりやすい作品が受賞した感があり、選外でもデモ動画があれば順位が上がりそうな作品もありました。大賞作品「noise」は、制作意図と制作物がしっかりリンクしているので票が集中しました。「凹凸」の錯視立体は新規性はありませんが、オリジナル作品を設計・制作した点を評価しました。「もう少しだけ過ごしたい一時」は、授業課題の目的や制約もあると思いますが、季節・時間による環境光の変化をLED・LCDパネルで再現する等のプラスアルファ要素があるとさらに良くなると思います。特に、1年生からの応募が多かったので今後が楽しみです。

■総評 織田隆治 参加作品全体として、より魅力的にみせるプレゼンテーションの工夫が欲しいです。デジタルをアナログの世界に引き出す「noise」は、「noise」の発生頻度や乱雑さにインパクトがあればさらに良いでしょうし、「凹凸」は写真のみではなくターンテーブルで回転させた方が面白いプレゼンテーションになると思います。最後に「もう少しだけ過ごしたい一時」は、綺麗にまとまっていますが、もう少し斬新さが欲しいと思いました。